

認知症介護指導者が、地域と連携し、地域活動の一旦を担う意味

埼玉県認知症介護指導者 小林 良

キーワード: 指導者の地域活動 企画立案 指導者の立場
正しい知識の普及 行政等との連携

活動の概要(活動の主体:個人)

【活動目的】

介護保険課、地域包括支援センターや認知症地域支援推進員との協働の意味。自らの地域で、指導者が、社会資源として活動する意味を持ちたい。

【活動内容】

- 市独自のキャラバン・メイト養成講座の講師(午後の部:講義・グループワーク)
- 新人メイトを対象とした勉強会の企画と講師。
- サポーター養成講座を、新人メイトと共同で行う。指導者が、サポートを行う。

活動のきっかけ、背景

介護課は、地域で活動するサポーター数を増やすために養成講座開催に必要なメイト数を増やしたいとのことで指導者に依頼があり、市主催のメイト養成研修を開催した。また、人に伝えることは非常に難しい為、メイト向けの勉強会(具体的な伝え方、工夫やポイント)の主たる講師として参加することとなった。

活動の経過と成果(指導者としての立場で)

【活動の経過】

2019年秋頃 介護課より、市及び近隣の郡市対象のメイト養成講座内の午後の部の講義・演習の講師として依頼を受けた。同年冬、具体的な開催要項や方向性を確認する会議を開催

2020年1月 キャラバン・メイト養成研修を開催

その後、メイト間の意見交換会に参加した時、キャラバン・メイトとしての事務作業は理解できても、実際に講座を開催するスキルは持ち合わせていないことを関係者間で共有する。5月頃に勉強会を開催することになったが、コロナ禍により延期となった。

2020年10月 第1週に講座開催に向けて、具体的な伝え方の工夫やポイントのメイト向け勉強会(約2時間)を開催。講義は約75分。ベテランメイトや推進員を配置したグループワーク(年内で行うアプローチについて具体的な案)を開催した。第2週には指導者が依頼を受けていた「サポーター養成講座」の一部を、新人メイトに担ってもらうための打ち合わせ。第3週に認知症サポーター養成講座を開催。開始早々の15分程度、そして後半の家族介護の実際について、新メイトが講義し、主たる講義と新メイトのサポートは指導者が行った。

【活動の成果】

通常は、県主催でキャラバン・メイト養成研修を行っているが、受講希望者多数で受講が出来ないこと。また、当該市は、中央まで出ていくことが物理的に遠い為、圏域の郡市(1市3町)在勤者を基本的な対象としたことの意味は大きい。受講者同士も顔馴染みであったりすることで、今後の活動への滑り出しや連携し易い。また、専門職では無い意欲的な介護者もメイトになったことは大きな意味がある。新しくメイトになった。その数、44名。

メイト向け勉強会の企画は、介護課、地域包括、推進員とメイト、指導者が協働で行った。勉強会参加者は、ベテランメイトが2名、新メイトが16名参加、その他、市職員や推進員等合わせて8名であった。自分は、メイトであると同時に指導者であること。また、今後も認知症関連や周知活動で関わられることを、新メイトや推進員等に知ってもらうことが出来た。

今後の展望

自らが指導者としての立場を明確にして、地域の人的資源になり得ることを証明する必要がある。まず、認知症関係の企画や会議には積極的に参加し発言をしていくなど、県内の他市町村でも連携し、活動していきたいと考えている。